東海学園大学教育研究紀要　第９号：85-93，2024

〈教育実践研究〉

教職ゼミにおける教員の基礎的知識・技能の修得に関する考察
―「専門基礎演習Ⅰ」（２年次）の取り組みを中心にして―

矢田貞行 *

はじめに－研究の意義と目的－

ここ数年来我が国においては、教員の資質能力の育成についてその重要性が叫ばれ続けている。特に中央教育審議会が 2015 年にその答申『学び続ける教師』を提唱して以来、大学の教員養成段階においても、学生が身に付けるべき資質能力が「教員育成指標」の中で可視化され、各地方自治体の教育委員会により具体的な形で提示されている。大学で教職を履修する学生が修得すべき資質能力（着任時）は、教育委員会の掲げる育成指標を俯瞰すると、概ね「児童生徒理解」「学習指導力」「生徒指導力」「学級経営」「連携協働」のカテゴリーに分けられ、着任時にそれぞれの基礎的事項について修得すべき内容が述べられている。[1)]

特に大学の養成段階においては、この育成指標に準じて教員養成を行うことが求められており、さらに 2018 年に定められた「教職コアカリキュラム」に基づいて、教職課程の履修に際し、これに相当する資質能力をいかに身に付けさせていくかが、愁眉の的となっている。

そこで本研究においては、自らの担当する“教職ゼミ”を中心にして専門演習の授業の中で、学生がどのような学びを通して基礎的な教師としての資質能力を涵養し、育成していくのかについて、授業実践研究という形で明らかにしたい。なお本稿では、２年次「専門基礎演習Ⅰ」における授業実践の取り組みを中心に論考を進めていく。

Ⅰ．専門基礎演習Ⅰにおける取り組み（令和４年度春学期）

令和４年度春学期において、専門基礎演習Ⅰの第１週目の授業の初日、まず授業の概要を次のように学生に提示した。

表 1．授業概要

◆教職教養の基礎的学修☛教採頻出漢字・教職教養・DVD（体育・スポーツ）視聴・感想
◆３年生による保健・道徳の模擬授業（児童生徒役）・反省会☛評価票に基づく授業評価（観点別に基づいて、各自の授業について評価）
◆模擬授業の感想（レポート）☛評価対象

令和４年度は、PARTⅠ、PARTⅡ及びPARTⅢに授業を分け、まずPART Ⅰでは教員採用試験や教育用語について頻出漢字の練習、次いで教職教養の学習として場面指導、さらに体育・スポーツに関するトピックスを取り上げ、簡単な講義の後、それに関する DVD 視聴、最後に感想を書いて次週添削

* 東海学園大学スポーツ健康科学部

して返却するという授業を行った。

次いでPARTⅡでは、道徳科についての模擬授業の児童生徒役を2年生に務めさせた。ゼミの3年生が教師役となり、小・中学校の道徳の授業を行った後、簡単なふりかえりと反省会を実施した。さらに、評価票に基づく授業評価と感想を提出させ、次週に「みんなの声」として学生に配布した。

さらにPARTⅢでは、教員採用試験（2次試験）において主として行われる場面指導を4年生が演じて、2年次学生はそれぞれのパフォーマンスについて評価を行った。

Ⅱ．概要

1．PARTⅠ

先述のように、授業開始のウォーミングアップとして最初、教員採用試験の1次試験の一般教養や小学校専門教養（国語）の過去問や教育専門用語の問題を10分程度の時間で解かせ、各自黒板に解答を書かせて、その後答合わせを行った。その際、日頃から漢字を苦手とする学生も少なくなく、また人前に出て書くことを躊躇する学生も予想されることなどを勘案して、どうしても分からない漢字はスマホ等で調べても良いとした。当然、漢字学習の重要性は改めて述べるまでもなく、教育実習時の板書、教員採用試験に際しての願書の記入や試験での論作文などにおいて、教師として誤字脱字は許されないからである。

次いで、教職教養の学習については、令和4年度から新企画として場面指導についての基礎学習を始めることにした。以前は模擬授業を行い、2年生同士の中で教師役と生徒役に分かれて模擬授業を行わせていたが、年々学生の基礎学力の低下や教員志望者の減少によって、必ずしもゼミ自体が教職志望者のみで行えなくなってきており、それ以外の学生を受け入れざるを得なくなっていることによる。そこで、やむを得ず模擬授業の実施を止め、それに代わって場面指導の基礎的学習を行うに至った次第である。

勿論、教員養成や教員採用試験において、場面指導は重要な受験科目の1つであり、その基礎的な知識・技能を修得することはきわめて重要である。1年次の教育原理や教職概論の授業で学んだ知見等を踏まえた上で、実際に学習指導や生徒指導、学級経営における教師の場面指導について具に学ぶことは、非常に有益なことであると考えた所以である。

そこでは、現職教員の研修用に使用されているDVDを教材に用い、具体的な学校における場面に即して、教師としてどのように対応すべきかについて考える演習形式で実施した。その際、ワークシートを用い、それに従って学生間の意見の発表を行わせた。ちなみに、取り扱ったテーマは、「成績に納得がいかない保護者からのクレーム」「体育の時間における事故（生徒のけが）対応の不備」「個人情報漏洩」「生徒に対する教師のセクハラの訴え」「いじめ対応の不備」等である。

このような実際の場面を想定した授業は、なかなか教科書やテキストに基づく講義中心の授業では、単なる知識修得に終始するばかりであり、実践につながる指導が難しい。まして況んや、そのための知見を得るには、ある程度実践を想定したツールを用いた授業を想定しなければならない。そのため、本演習で用いた現職教育用に教育委員会が使用しているDVD教材は、問題の可視化や学校現場の側面、教師や生徒の（問題）行動を映し出すのには、きわめて有効であった。また、学生の側でも何人かの学生が後述するコメントの中でも述べているように、問題意識の涵養に役立ったのではないかと思う。事実、授業中学生から出された回答や意見も概ね正鵠を射たものであった。ちなみに、そのいくつかは次の通りである。

教員採用試験の漢字テストでは、少し難しい漢字や読み仮名が一緒の漢字などが自分の苦手なところだと分かりました。もともと私は、漢字が少し苦手で、間違えてしまうことが多いのですが、教員

になるには生徒のお手本にならないといけないので、誤字脱字がなくなるように苦手な部分の克服を行おうと思います。

前半では、動画を見ながら、どこが教師として良ろしくない点であるかを見付け、発言をした。また、授業前には必ず漢字トレーニングをすることで、教養を身に付けた。教師は、生徒の目の前で黒板に文字を書くことが多く、それを生徒は見ている。漢字を書き間違えることや、書き順を間違えることで、生徒たちは、先生のことを見下すようになる。教師は生徒たちに知恵や知識を教える立場であるので、決して学習の面で教師が間違えることはあってはならない。

自分は、このゼミで教員になるために必要なことを学ぶと同時に、教員になることの難しさと、教員になった際の大変さを理解することができた。ゼミの最初のほうの授業では、子どものスポーツ離れや体育が嫌いな生徒に、どうやって対応していくのかを自分で考えるきっかけになり、とても良い経験になった。そして、教員になった際に、してはいけないことや保護者への対応など教員の大変さを知った。この最初のゼミで、現在の日本の教育の社会では、教員の人員不足など様々なことを改善していく必要があると思った。

いろんな動画を見てきて一番自分が心配になったことは、生徒の両親へのトラブルの件です。もちろん親は、子ども思いですから、何かしらのトラブルがあったとしても、まず第一に子どもを優先させるでしょう。そこで、どれだけ冷静にさせ、説得または納得させるかが重要だと感じます。今の自分ができるかと言われたら、できる自信はないですし、自分の考えを話すことができないと思います。東海学園大学では、人前で話すことや自分の考えを発表する場面がたくさん設けられているので、今の時期から自分が先生になったと思いながらやらないといけない、と強く感じました。先生としてまずやらないといけないのは、生徒の気持ちや考えを知ることです。これは、とても難しいことかも知れませんが、ちょっとした変化に気付いたり、生徒に寄り添うことが今問題になっているいじめの対策ではないでしょうか。生徒の成長を身近に感じられる素晴らしい職業なので、誇りをもってやり遂げるためにも、今のうちから先生になるための準備期間としてやっていきたいと思います。今回受けた授業でできた経験をメモにしたり、無駄にしないようにしていきたいです。

今回のゼミでは、教師のトラブルへの対処法を学びました。教師は、多くの人と関わる仕事であり、人間関係のトラブルも数多いと知りました。一番良くないのが１人で解決しようとすることだと学びました。相談せずに１人で解決をしようとし、もう引けない状態まで来たときにトラブルが発覚することが多い事例です。もし教師になったときには、まずは学年主任や校長先生に相談しようと思いました。決して１人で解決しないよう気を付けておきたいです。

教師たるもの生徒との距離はもちろん、親御さんとの関係も気を付けないといけないので、そのことを肝に銘じておきたいです。

ゼミでは、いろんなことを学びました。特に学校で起こる様々な問題の対処の仕方を考えることが多かったですが、正直問題の対処の仕方には自分では思い付かなかったことも多かったので、今のうちに知ることができて良かったと思います。１番印象に残って大切だなと思ったことは、学校で起きる問題は１人で抱え込まずに、校長や他の教員と協力して解決していくということです。

表2. 令和4年度春学期日程表

PART Ⅰ	1	４月１２日	自己紹介（「学級開き」の youtube 使用）の仕方、自己紹介、授業の進め方・評価
	2	４月１９日	教育漢字、教職教養（「成績に納得がいかない」）
	3	４月２６日	教育漢字、教職教養（「子どものけが対応」）、「体育嫌い」（DVD：「苦手克服プログラム」）、感想
	4	５月　２日	教育漢字、教職教養（「個人情報保護」）、「ゆるスポーツ」、感想
	5	５月　９日	教育漢字、教職教養（「セクハラ」）、「運動神経」（DVD：「チコちゃんに叱られる」）、感想
	6	５月１６日	教育漢字、教職教養（「いじめ」）、次回からの予定について
PART Ⅱ	7	５月２３日	模擬授業（保健）・反省会（ふりかえり）
	8	５月３０日	〃
	9	６月　７日	〃
	10	６月１４日	模擬授業（道徳）・反省会（ふりかえり）
	11	６月２１日	〃
	12	６月２８日	〃
	13	７月　５日	レポート作成、秋学期ゼミ選択ガイダンス
PART Ⅲ	14	７月１２日	教採場面指導（４年生と合同）
	15	７月１９日	〃

次に行った体育・スポーツに関する学習では、教職以外の学生も何人か抱えているため、学校教育のみに特化されないテーマを選び、たとえば「体育嫌い」「ゆるスポーツ」「運動神経」「運動会」「スポーツ人材派遣会社（リーフラス）」などを取り上げた。授業では、DVD の視聴に先立ち、これらに関する簡単な講義を行った。その後、感想を 10 行以上学生に書かせ、書く練習、論文を構成する基礎的トレーニングとして位置付けた。何度も文章を添削していく中で、徐々に学生も書く要領を覚え、文章自体も精巧かつ精緻なものとなっていくことが感じられた。

2. PARTⅡ

6 回程度の PART Ⅰの後、3 年生を教師役とする模擬授業に入った。この模擬授業については、これまで本教育研究紀要において度々紹介してきた通りである。すなわち、保健（中･高）、道徳科（小･中）を中心に 2 年生が児童生徒役になって、50 分（小学校は 45 分）の模擬授業を受けるというものである。

ただし、令和 4 年度のからは、授業終了後の反省会を充実させることも念頭に置き、授業の感想を学生に 10 分程度書かせた後、次回に授業者を行う 3 年生を司会者に立て、授業者による反省･ふりかえり、2 年生の何人かを指名して授業の感想等を述べさせて、最後に教師によるコメント・講評を行って締めくくることにした。

その後、評価表と感想を記入した用紙を回収し、次週「みんなの声」として配布する行程は、これまでと同じである。なお、模擬授業に関して、学生から寄せられたコメントは、次の通りである。

模擬授業を受けてみて、率直に難しいと感じた。3 人の先生に模擬授業をしてもらったが、全員とても授業がうまく、1 年後に自分が教職を続けていて、模擬授業をしていると考えると、とても不安になった。勿論 3 人の方は、いろんな準備を重ねて模擬授業をしていたんだと思う。

模擬授業では、現在、学校保健の授業で行っている指導案の作成や、授業をする単元の研究を行う必要が大いにあると感じた。1 つの授業に対してあれだけの研究や指導案を作り上げるのは、非常に

大変だと思った。さらに、模擬授業はあくまでも授業なので、生徒への声掛けや、説明する際の声のボリュームや目線、生徒へ注意を配るなど授業内容を教えるだけでなく、様々なスキルが必要だと感じた。生徒から見て、堂々としゃべっていたほうが伝わりやすいし、変に緊張感のある授業ではなく、面白く生徒が興味を示してくれる授業をする工夫は、指導案を作るよりもはるかに難しい。

自分は、このゼミを履修してみて、自分が教師になるためには足りないことばかりということを実感させられた。まだ２年生ということもあるが、１年後にもう模擬授業を始めていると考えると、準備を今から始めるのも早くはないのではないかと思った。何より自分がこのゼミで一番実感したことは、人前で話すことの難しさだ。自分が人前で授業をしたわけではないが、模擬授業を受けて、より一層難しさを感じた。また、漢字なども難しく感じたので、教師を目指すには不足していることだらけなので、しっかり頑張っていきたい。

模擬授業を受けてみて来年になったら自分自身もやらないといけないと感じましたし、今直ぐに自分にできるのかなと思う部分がありました。授業を受けてみて一番大事だなと思ったことは、やはり声の聞き取りやすさだと感じました。今回の授業で受けた３人の先輩方はとても聞きやすく、受けている側として内容がとても頭に入ってきましたし、自分も発言したくなるような授業でした。もちろん、グループワークなどを入れてみんなで会話をしながらの授業も大切だと思いますが、生徒が発言したい、楽しいと思えるような授業をすることが大切だと感じました。受けている側として、もう少しこうしたほうが良いのではないかと思った部分もありましたし、それをメモに書き止め、来年もし自分が授業をする側になった時に生かせるようにしたいです。

模擬授業を受けてみて、生徒に授業の内容を理解させることの難しさを改めて知りました。授業を評価する側に立つと教師が話していることが適切なのかどうかを考えながら聞くことができ、もし自分ならと逆の立場で見ることもできました。

今回は、３人の模擬授業を受けさせていただき、ある共通点に気付きました。３人の共通点は、授業中グループワークを多く取り組んでいたことであり、グループワークをすることで、生徒たちが自分の意見をしっかりと相手に伝えることができるので、私も模擬授業をするときには、積極的に取り組みたいと思いました。１人１人個性があり、その個性をうまく使って授業をしており、受けていてとても身になることばかりでした。

授業中の生徒とのコミュニケーション、時間配分、グループワーク、黒板の使い方、実体験、声のトーン、視線など学んだことはまだまだありますが、これらをしっかりと活かしていきたいです。

模擬授業を受けて、私はとても驚きました。自分と１つしか歳の変わらない方がまるで先生のように授業をしていて、多少のミスはありましたが、私が今まで見てきた授業そのものでした。今の段階で、このクオリティを出せるのは、相当な努力や勉強の成果だと思います。沢山のボランティア活動をされていると聞いて、生徒とのコミュニケーションの取り方や板書の工夫など実践しなければ分からないこと、学校現場で実際に見てきたものが活かされていて、やはり大学の授業で学んだことだけではダメなのだと感じました。夏にあるボランティア活動に、私も一度挑戦してみたいと思い、積極的に情報をつかんでいきたいです。私たちが考えるより、教員になることは難しいと知り、授業を受けて良かった所を私自身が吸収して、また指摘されていたところは、同じミスを犯さないように気を付けたいです。

3年生の方があれだけ授業をできるのを見て、私が後半年後今と同じような生活を送っていて同じ授業をできるとはとても思えません。今の自分の甘さに気付くきっかけになりました。また、私があと半年でどれだけの努力をしなければならないかが、とても良く分かりました。これからテストや教員に必要な授業があり、今できることに全力を注ぎたいです。

今回は、3年生の方の模擬授業を受けさせていただきましたが、自分が想像していた以上に授業自体のレベルが高く、高校で受けてきた授業とほとんど変わらないものだったことに驚きました。今回授業してくださった3年生の方は、この模擬授業のために沢山練習して知識を増やしてきたのだということが伝わり、自分も模擬授業を行うときは練習を十分行い、教科書に載っている基礎知識だけでなく幅広い知識をもって取り組もうと思いました。

模擬授業は1人2度聞かせていただきましたが、どの授業者の方も1回目で出た課題を2回目では改善し、より良い授業になっていました。2回目の授業は道徳と普通の授業を行うよりも難しいものでしたが、黒板の見易さ、しゃべり方、グループワークへの工夫などいろんなことを細かく修正していて、こんな風に授業はより良いものになっていくのだなと思いました。授業の評価を先生方にしてもらうことはあっても生徒にしてもらう機会は少ないと思うので、生徒とより近い意見を持てる学生に評価してもらえるという、この模擬授業はとても良い経験になると感じました。逆に私は、模擬授業を受講した学生側でしたが、自分と年齢の近い学生が行う授業にはとても刺激を受けたし、自分が授業を行う姿がより鮮明にイメージできました。さらに、授業をしていた側の意見も聞けて、今後にとても役に立つ授業だと思いました。他のゼミ生が全員同じように模擬授業を受けるという経験できるわけではないので、とても良かったと思います。今回学んだことを忘れずに、来年自分が今回見せていただいたような後輩の良い見本となるような授業ができるように、今後取り組んでいきたいです。

矢田ゼミでは、教師の基礎的資質の1つである、学習指導力、授業力の理解を深めた。教師力の向上を努めることにより、子どもたちが安心して学校生活を送れるようになる。

後半では、3年生の模擬授業を生徒役として受けた。この体験は、とても貴重なものであった。歳が1つしか離れていない先輩方が、今まで学校で受けてきたような授業を私たちの目の前で展開してくれて、とても刺激になった。その反面、1年後には私も先輩方のような授業を行うことができるのかと思うと、不安に思う部分もある。受講していて、授業以外のことについても目を向け、知識をつけていたほうがその授業はとても面白いものになると感じた。学校には学習をすることが苦手な子から、知識をつけることが好きで博識な生徒も必ずいる。その生徒に教師が教えられていては、教師失格である。常に教師は様々なことに好奇心や追及心を持ち続けて生きていかなければならない。そして、生徒たちの記憶に残る授業、楽しい授業を展開していくように努める。授業を成功させるためにも、最初の発問が大切であることや、授業内でメインの答えが生徒たちから出されないと、その授業は失敗作となってしまうことも学ぶことができた。そうならないためにも、教師たちは学習指導案を研究し続ける。つまり、教師になるうえで向上心は忘れてはいけない。

今回のゼミで模擬授業を受けることにより、教師になるための道を歩んでいる実感が湧き、教員採用試験や教育実習を行う未来も全く遠くはないと知ることができたことが、大きな収穫であった。教員採用試験までちょうど2年。この2年間を将来の夢に近付ける2年間にするか否かは、自分次第である。

3. PARTⅢ

本演習の最後の2回（第14～15週）では、教育実習を終え教員採用試験の受験を間近かに控えた4

年生との合同ゼミを行い、４年次生が学校現場に即したいくつかのテーマでそれぞれの演題に応じて生徒指導や学級経営における場面の中で、教師としての指導力を演じる（５分程度）、所謂場面指導を行わせている。そして４年生ならびに２年生が、それをいくつかの観点から評価して、コメントを発表するという協同学習の形式を採っている。

この時期には、すでに４年生は中学校や高校における教育実習を通して、ある程度学校や生徒の実態、生徒指導や学級経営の基礎、学校という組織形態、教職員の様子などを知っており、かつ目前に迫った採用試験や教職に対する意識や意欲を高まってきている。そのため、真摯に場面指導についても事前の段階からその重要性を認識し、万全の準備をして臨むという者も多い。ただし、テーマが多岐にわたり、小学校を志望している学生には小学校での実習が秋学期になっているという点や多くの自治体が２次試験に課すことが多いため、１次対策精一杯でそこまで対応が十分にできていないという者も若干見られたのも事実である。

他方、２年生にはまだこのような切迫感はないものの、２年後の教員採用試験における１つの場を見せておくことも有益であると考え、合同ゼミの形を採った次第である。（３年生に対しても、同様の観点から時間の関係上、１回だけこうした機会を設けた。）

ところで、４年生各自の受験勉強の進捗状況の違いもあるので、そのことを斟酌して題目に対する模範解答を事前に学生に通知したうえで準備に入らせた。無論、このような類いの試験は、所謂正解のない答であり、また演者の言動、立ち振る舞い、雰囲気等が多く合否に関係するので、むしろそちらのほうの取り組みを重視して準備に当たるよう、アドバイスを行った。なお、学生から寄せられた感想は、以下の通りである。

> 場面指導では、１年生の時に他のゼミで学んだこともあり、少し分かりました。でも、まだまだ言葉遣いや突然起こってしまったことに対応できるぐらいの対応力が自分にはないな、と感じました。場面指導は、経験を積むことが必要なのとしっかり対応について学ぶことが大切で、また他の同僚の先生が困っているときは、助けられるように今度の場面指導の授業でしっかり学びたいです。

4. その他

これ以外、ゼミ（専門基礎演習Ⅰ）においては、第１週目は自己紹介を行わせている。単なる自己紹介ではおもしろくないので、一応全員が新任教員という前提で、初めて教壇に立ったとき、児童生徒に対してどのように自己紹介をするかという視点で、実施している。また、これに先立ち、自己紹介（教師のプロフールや性格や長所･短所、趣味など）や学級開きに当たってのアナウンス（学級の教育目標、クラス像、約束事等）のポイントについても、動画を参考に用いながら説明を行い、15分程度の時間を与えた後、発表させた。

さらに、最後の第15週目の授業は、PARTⅠで行った漢字の練習問題を中心に書き取りテストを行い、既出漢字の修得をねらいとした。同様に、本授業のふりかえりとまとめとして、学生に本授業の感想について書かせるミニレポートを課し、評価の対象とした。

おわりに

上記のように、これまで教員の資質能力の育成については、文科省や教育委員会・教育研究所等において指導書や報告書、実践報告書（学習指導・生徒指導、学級経営等）という形で、学校現場の教師を対象に刊行されている。しかし、大学の養成段階では、「教職概論」「教育原理」と題するテキストにおいて抽象的な形で、必要とされる資質能力について記載されている以外、実践的な視点からどのように

して教員の資質能力を育成・涵養するかについての研究成果がほとんど皆無である。しかも、これに関しては、教員養成を専門とする大学教員による大学や教職大学院での研究論文や実践報告が若干見られる程度である。

他方、「教職コアカリキュラム」についても、演習やゼミの授業における教員の資質能力の育成については、ほとんど言及がないのも事実である。このような理由から、これから教職を目指す学生を念頭において、今後こうした類いの研究をより一層推し進めていく必要がある。その意味で、本研究におけるように、専門基礎演習Ⅰで実施しているゼミ学生に対する授業の実践をまとめて行くことが、教員養成段階における学生の基礎的資質能力を育んでいくのかを例証することになると強く確信する。

注

1）例えば、愛知県教育委員会は4つのステージに教員の資質能力を分けて、それぞれの段階における育成指標を具体的に述べている。

「着任時」……大学を卒業段階において、基礎的基本的資質能力を身に付ける

「第1ステージ」……教員としての基礎を固める

「第2ステージ」……ミドルリーダーとして、推進力を発揮する

「第3ステージ」……シニアリーダーとして、牽引力を発揮する

大学を卒業して教職に就く初任教員の求められる資質能力については、表3に示す通りである。なお、「素質」に関しては、第1～3段階を通じて同一の内容になっている。

表3. 愛知県教員育成指標【教諭】（2022年）

資質能力		愛知県が求める着任時の姿
素質	教育的愛情・使命感・責任感	○児童生徒の伸びようとする姿を捉え、愛情を持って寄り添い、支え続け、児童生徒の成長に歓びを感じる。 ○児童生徒の未来を真剣に考えるとともに、将来を担う児童生徒の成長を請け負う使命感や責任感を自覚する。
	倫理観・人間性・行動力	○高い倫理観を持ち、法令を遵守し、児童生徒の見本となるような立ち振る舞いを心がけ、児童生徒との信頼関係を築こうとする。 ○児童生徒の目標・憧れとなるような魅力的な人間の姿を追究する。 ○自ら行動し、粘り強く、職務に取り組もうとする。
	自己教育力・創造的思考力	○幅広い教養と高い専門性を備えつつ、常に自分の姿をふりかえり、向上心を忘れることなく自ら学び続ける意欲を持っている。 ○新たな問題に直面しても、柔軟に対応するとともに、常に創意工夫しながら物事に取り組んでいこうとする。
	コミュニケーション力	○自分の考えを伝えるとともに、周囲の状況や相手の思いを踏まえ、共通理解を図りながら協働的に行動する。

指導力	児童生徒理解	○子どもの発達の段階や成長に関わる基礎的な知識を身に付け、児童生徒理解の意義や重要性を認識し、１人１人に愛情を持ち積極的に関わろうとする。
	学習指導	○学習指導要領を基に、発問や板書、環境の構成などの基礎的な指導技術を身に付けたり、指導計画に従い、実践したりしようとする。
	生徒指導	○生徒指導及びキャリア教育の意義を踏まえ、個や集団を指導するための手立てを知り、実践しようとする。
	多様性への理解と教育支援	○人権感覚を持つとともに、児童生徒の個性を尊重し、個に応じた指導・支援をする必要性を認識している。 ○特別支援教育、外国人児童生徒教育など特別な配慮を必要とする児童生徒の多様な背景を理解しようとするとともに、インクルーシブ教育の大切さを認識している。
マネジメント力	学級経営･学年経営･学校運営	○理想とする児童生徒や自分の姿を持ち、その実現に向けて、実践しようとする。 ○学校教育の意義や教育に関する今日的な課題などの教育に関わる情報を積極的に得ようとしている。
	学校安全･危機管理	○学校安全についての基礎的な知識を身に付け、児童生徒の身の回りの危険を察知し、回避したり、適切に対応したりしようとする。
	同僚との連携･協働	○社会人として良識ある言動をし、円滑な人間関係をつくろうとする。
	地域社会との連携・折衝	○教育公務員としての自覚を持ち、社会とのつながりを意識して、行動する。 ○家庭、地域、関係諸機関との連携の重要性を理解し、積極的に関わろうとする。

（出典：愛知県教育委員会『教員育成指標【教諭】』令和４年度版より一部修正した。）